

ホタルの生息域拡大を目指して取り組んでいること

カワニナを生息させるために、カワニナが生息している環境に近づけるために試したこと

1. カワニナが生息するためには流速が必要？⇒バーブを作り流速に変化を付ける。

2. カワニナは何を食べているの？⇒(1) ホタルの森資料館の方が教えてくれた。

イヌビワの葉やキャベツの葉を食べるとのこと

(2) カワニナが自生している箇所の藻を調査

琵琶湖博物館 大塚さんに藻の解析を依頼

3. 今の生息条件の確認で、カワニナの移動⇒天敵に食べられたのか、殻が欠けた死骸のカワニナを発見するのみ。

(協力してくれたカワニナの供養をしないと ...)

4. 不足していた生息条件⇒カワニナが吸着する小石や壁面が必要では？

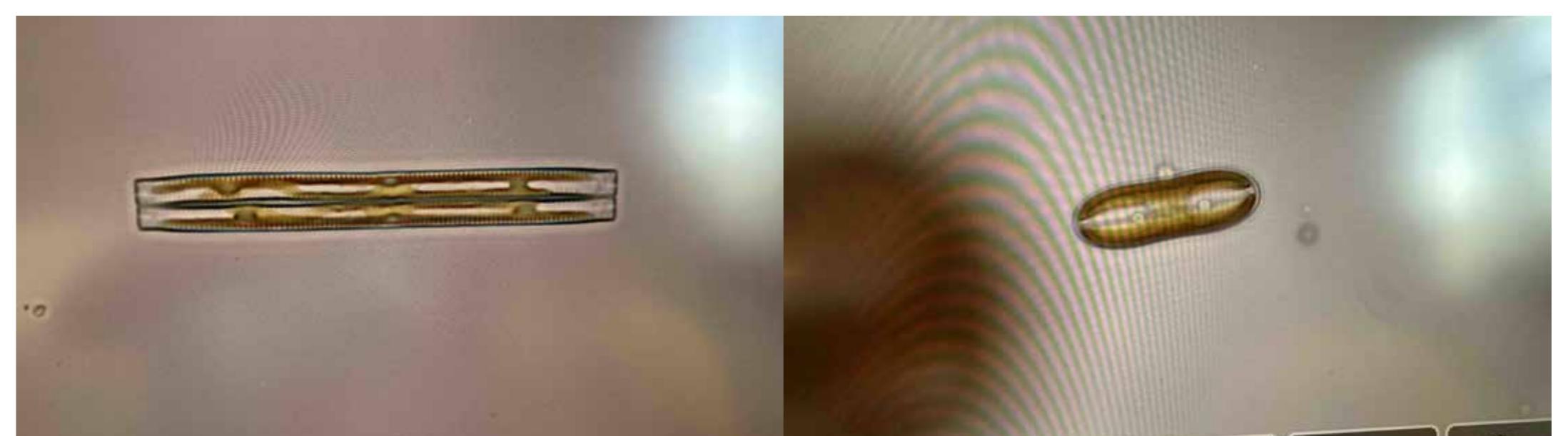
バーブの後方に小石を移動させる実験を開始、観察結果は今後



バーブで流速の変化を付けてみる。後は小石を敷き詰める



滋賀県立琵琶湖博物館 大塚さん 撮影



カワニナが珪藻を食べる？

川ぞこを柔らかくする川あるきで気づいたこと

川の生き物調査をしていたときに、ブラックバスを捕獲した。川あるきでもブラックバスを見かけた。気になり、環境DNA調査を実施してみると、ブラックバスやブルーギルの存在が明らかになった。

今取り組んでいる川は野洲川の石部に取水口があり、野洲川から魚が流れている。

外来生物が琵琶湖以外にも幅広く生息していることが判明した。



アユとブラックバス



オイカワの婚姻色

調査日：2025年9月13日(土) 10:00 調査地点：大宝小学校前



ヒズスを着て
川の生き物調査

Scientific Name	Japanese name	系統樹から同定された種のリスト	系統樹から同定された種のうち、分布域などから同定された種	TSN01001_S8_L001	TSN01NCI_S9_L001	TSN01NTC_S10_L001
<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ			66709	0	0
<i>Rhinogobius flumineus</i>	カワシノボリ			23540	0	0
<i>Rhinogobius</i> sp.	ヨシノボリ属の一種	カワシノボリ_Rhinogobius flumineus, ピワヨシノボリ_R. biwaensis, シマヒレヨシノボリ_R. tyoni, アヤヨシノボリ_Rhinogobius sp. MO, アオバヨシノボリ_Rhinogobius sp. BB, オオヨシノボリ_R. fluviatilis, クロヨシノボリ_R. brunneus, ルリヨシノボリ_R. mizunoi, トウヨシノボリ_Rhinogobius sp. OR, オガサワラヨシノボリ_R. gasawaraensis	ヨシノボリ属複数種の含まれるクラスターに位置する。種までの同定が困難なため、ヨシノボリ属の一種として同定した。	17578	0	0
<i>Hemibarbus</i> sp.	ニゴイ属の一種	ニゴイ_Hemibarbus barbus, コウライニゴイ_H. labeo	ニゴイおよびコウライニゴイの含まれるクラスターに位置する。種までの同定が困難なため、ニゴイ属の一種として同定した。	10665	0	0
<i>Nipponocypris sieboldii</i>	ヌマツツ			9313	0	0
<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	コイ_Cyprinus carpio	コイ(野生型) およびコイ(飼育型) を含む。	9071	0	0
<i>Pseudogobio esocinus</i>	カマツカ			2683	0	0
<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	アユ_Plecoglossus altivelis altivelis, リュウキュウアユ_P. a. ryukyuensis	アユおよびリュウキュウアユの含まれるクラスターに位置する。分布域からアユとして同定した。	2204	0	0
<i>Nipponocypris temminckii</i>	カワツツ			2174	0	0
<i>Carassius</i> sp.	フナ属の一種	ギンブナ_Carassius sp., キンブナ_C. buergeri subsp. 2, オオキンブナ_C. b. buergeri, ニゴロブナ_C. b. grandoculis, キンギョ_C. auratus, フナ属の一種(琉球列島) – Carassius sp.	ギンブナ、キンブナ、オオキンブナ、ニゴロブナ、キンギョおよびブナ属の一種の含まれるクラスターに位置する。種までの同定が困難なため、フナ属の一種として同定した。	805	0	0
<i>Silurus asotus</i>	ナマズ			696	0	0
<i>Tanakia limbata</i>	アブラボテ			435	0	0
<i>Cyprinidae</i> sp.	コイ科の一種	カマツカ_Pseudogobio esocinus, 外国産カマツカ_P. vallanti	カマツカおよび外国産カマツカの含まれるクラスターに位置するものの一致率が低く、種までの同定が困難なため、コイ科の一種として同定した。	397	0	0
<i>Cyprinidae</i> sp.	コイ科の一種		コイ科種群のクラスターに位置するものの一致率が低く、種までの同定が困難なため、コイ科の一種として同定した。	378	0	0
<i>Gnathopogon</i> sp.	タモロコ属の一種	ホンモロコ_Gnathopogon caerulescens, タモロコ_G. elongatus	ホンモロコおよびタモロコの含まれるクラスターに位置する。種までの同定が困難なため、タモロコ属の一種として同定した。	314	0	0
<i>Tanakia lanceolata</i>	ヤリタナゴ			274	0	0
<i>Lepomis macrochirus</i>	ブルーギル			241	0	0
<i>Micropterus dolomieu</i>	コクチバス			133	0	0
<i>Gymnogeophagus urotaenia</i>	ウキギリ			119	0	0
<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	ドジョウ			109	0	0
<i>Squalidus</i> sp.	スゴモロコ属の一種	スゴモロコ_Squalidus chankaensis biwae, コウライモロコ_S. tsuchigae, デメモロコ_S. japonicus japonicus	スゴモロコ、コウライモロコおよびデメモロコの含まれるクラスターに位置する。種までの同定が困難なため、スゴモロコ属の一種として同定した。	84	0	0
<i>Channa argus</i>	カムルチー			84	0	0
<i>Tachysurus muciceps</i>	ギギ			73	0	0
<i>Homo sapiens</i>	ヒト			0	46843	0



(↑) 環境DNA調査結果

(←) 環境DNA調査キット

株式会社フィッシュパスさんに依頼



小さな自然再生ネットワーク

1. 活動資金の捻出

税理士より収入の無い事業の経費は認められないと指摘を受けました。

応援カードに投票してくれる方にお願いです。

活動を継続するための可能なら寄付をお願いします。

2. 川辺の憩いの場作り

川の天道を憩いの場として有効活用したい。

南部土木事務所との協議が可能か？